

カスタム関数のチューニングにより、 CRF保存のパフォーマンスを60%高速化¹

- カスタム関数パフォーマンス診断・チューニングサービス -

Raveカスタム関数パフォーマンス診断・チューニングサービスは、ユーザーエクスペリエンス（CRFページのターンアラウンドタイム）向上を目的に、メディデータの専門技術者による低パフォーマンスのカスタム関数の抽出、影響範囲の診断、パフォーマンス改善のための提案から改善後のサポートまでを提供するトータルソリューションです。

カスタム関数パフォーマンス診断で明らかになる真実

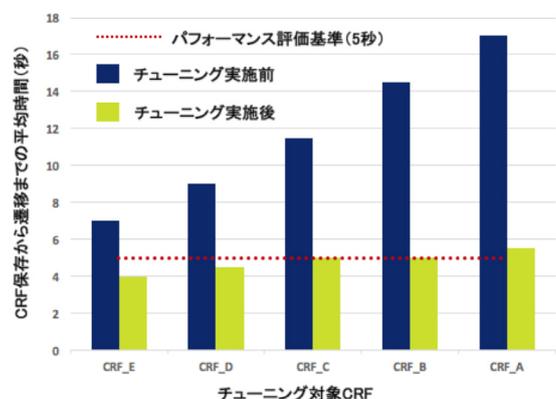
Rave EDCの機能の一つであるカスタム関数は、標準のエディットチェック機能では実現できない「複雑な」論理チェックや値の導出を可能にするパワフルなツールとして、数多くの臨床試験・市販後調査において利用されています。一方で、最適化されていないカスタム関数を実装されると、CRFの保存から遷移までに余計な時間が掛かり、ユーザーエクスペリエンスは著しく低下します。

近年の調査により、ウェブページが表示されるまでの時間が3秒を超えると約4割、5秒を超えると半数以上のユーザーは、表示前にブラウザから離れてしまう傾向があると報告されています。カスタム関数パフォーマンス診断では、お客様のURL上で閾値として定めた実行時間を超える低パフォーマンスのカスタム関数を特定し、改善点を明確にします。

カスタム関数パフォーマンスチューニングによる効果

パフォーマンス診断を実施し、パフォーマンスの悪いCRF/カスタム関数が特定された場合、カスタム関数のコードレビューを行い、プログラムの改善提示、内容の説明と修正後の検証といった一連のチューニング作業を行います。

以下の事例では、CRFの保存から再表示までに平均5秒以上を要した5種のCRFとそのCRFに組み込まれていたカスタム関数に対してチューニングを行い、約60%の高速化を可能としました。



改善対象となる関数の例

- Eメール送信
- 症例検索
- 監査証跡検索
- データベース呼び出し

チューニング実施前はCRFの保存から再表示までの平均時間が約11.8秒だった5個のカスタム関数が、チューニング実施後、約4.8秒まで高速化

診断対象事例

以下のような課題を持つお客様に対して、パフォーマンス診断・チューニングサービスは非常に大きな効果を発揮します。

- 自社でカスタム関数を含んだスタディ構築を実施しているが、ユーザーエクスペリエンスが思わしくない
- スタディ構築を外注しているが、利用者から表示までの時間が遅い、といったクレームが来る

本サービスにて提供される内容

- 実行時間が特定の秒数を超えるカスタム関数の抽出
- パフォーマンスの悪いカスタム関数のコードレビュー・改善の提案
- 複数のエディットチェックやカスタム関数が設定されているフィールド・フォームの特定
- 使用されていない、または実行頻度の低いエディットチェックの抽出
- パフォーマンスチューニング後の再診断、チューニング結果の確認、ユーザーエクスペリエンスが思わしくない

豊富なフォローアップオプション

- 定期的な診断実施と診断結果に対するコンサルティング
- 認定カスタム関数トレーナーによるカスタム関数プログラミングワークショップの再実施
- 認定カスタム関数トレーナーによるベストプラクティスワークショップ

注¹パフォーマンスチューニングによって得られる高速化は診断結果やCRFの構築方法、カスタム関数の要求仕様により異なります

お問い合わせ先

Medidata Solutions K.K.

貴社担当のプロジェクトマネージャー
または営業までお問い合わせ下さい。